

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 1 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究（A）

研究期間：2009～2011

課題番号：21243015

研究課題名（和文） 東アジアにおける地域協力枠組み発展の政治過程

研究課題名（英文）

Political process of developing regional cooperation frameworks in East Asia

研究代表者

田中 明彦（TANAKA AKIHIKO）

東京大学・大学院情報学環・教授

研究者番号：30163497

研究成果の概要（和文）：

第1の目的であった東アジアにおける地域協力枠組み成立と発展に関する基礎的情報をできるだけ詳細記録することについては、3年間で国内外の約10カ国以上に出張し、約70名からの聞き取り調査を行った。そのうちインタビュー記録の許可を得た50人分のインタビュー記録を作成し、ワーキングペーパーとしてまとめた。

第2の目的である、収集された基本資料や二次文献をもとに、20世紀後半から21世紀にかけての東アジア地域協力枠組みの進展の歴史を分析・記述することについては、以下にリストアップする研究者各自の論文や著書などで発表された。このような研究によって、ASEAN内部の共同体形成をめぐる政治とならんで、中国のパワーの増大、日中政治関係、自由貿易協定作成の動向、金融協力の進展などの重要性が明らかになってきた。

第3の目的の東アジアにおける地域統合に関する新たな理論的展開をめざすという点に関しても、その成果については、以下にリストアップする研究者各自の論文や著書で発表を行った。このような作業を通じて、ASEANをコアとする多重の地域枠組み形成が東アジアの地域統合の特徴であること、各国における民主化の進展が地域枠組み内部の規範の形成もうながすこと、制度化の進展における危機の果たす役割が重要であること、主要国間の権力移行のダイナミクスが地域統合にも影響を及ぼすことなどの理論的仮説が形成され、今後のさらなる検討課題となった。

研究成果の概要（英文）：

The first purpose of this study was to compile detailed records of the political process of regional framework formation in East Asia. To this end, we conducted intensive interviews with roughly 70 policy makers and experts in more than ten countries including Japan over the past three years. The transcripts of the 50 interviewees who granted us recording permission were compiled in the form of working papers.

The second purpose of this study was to analyze and describe the development of regional framework formation based on both the transcribed records as well as secondary materials. The results were published in article and book form, a list of which can be found below. Our analysis highlights several major factors at play: the importance of China's rising power; the dynamics of Sino-Japanese relations; the process of FTA formation; the progress of financial cooperation; and the political process of community-building within ASEAN.

The third purpose of this study was to develop a new theoretical understanding of regional integration in East Asia. Some of our findings are detailed in the published work listed here. Significant theoretical issues that emerged during our research include the centrality of ASEAN as a major influence steering the formation of East Asian regional frameworks, the impact of democratization in regional states on the norms formation of regional frameworks, the role of crises on institution building, and

the implications of power transition among major powers involved in East Asian international politics.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	8,400,000	2,520,000	10,920,000
2010年度	6,900,000	2,070,000	8,970,000
2011年度	7,800,000	2,340,000	10,140,000
年度			
年度			
総計	23,100,000	6,930,000	30,030,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：政治学・国際関係論

キーワード：政治学 東アジア 国際政治 地域主義 地域協力

## 1. 研究開始当初の背景

1997年12月に最初の会合が開催されたASEAN+3首脳会談は、当初定期的開催が想定されていなかったにもかかわらず、その後、毎年開催されるようになり、現在では東アジア地域協力の一つの中心的な地域枠組みとなってきた。この枠組みを中心に、日本政府はじめ各国政府などによって「東アジア共同体」の形成といった構想まで語られるようになり、各種の共同体形成の政策提言も数多く発表されてきた。2005年12月には、ASEAN+3首脳会議に加え、最初の「東アジア首脳会議」も開催された。1990年代はじめまで、地域協力の枠組みに乏しかった東アジアに、地域主義の季節が訪れようとしているようにみえた。もしこの動きが継続し、将来的に「東アジア共同体」が形成されることになれば、1990年代から21世紀最初の十年は、東アジア共同体の「創世記」ということになることが予想された。しかし、東アジア地域には、北朝鮮問題を初めとして複雑な安全保障問題が多く存在している。さらに地域枠組みの形成をめぐるには、東アジア首脳会議の参加国問題などに見られるように、関係国の間の見解の相違も存在した。したがって、東アジアにおける地域枠組みの発展には、まだまだ複雑な紆余曲折がおこるものと予想されていた。いずれにしても、東アジアの今後について、より緊密な地域枠組み形成が実現するかいなかは、きわめて大きな問題となっていたのである。

しかしながら、研究開始当初進行中の東アジアの地域協力枠組みの形成については、学問的検討が十分行なわれているとは言い難か

った。この地域に適切な理論的展望も不十分であるのみならず、過去に起きた事態に対する歴史的裏付けも十分でなかった。とくに、中心的枠組みであるASEAN+3の発足の背景、発足時の時代的背景、制度化にいたる政治過程、この枠組みの形成に関する各国政府や関係機関・有識者などの見解については、十分解明されていなかった。現在のASEAN+3が、将来の「東アジア共同体」に発展していったとすると、現状のままでは、「東アジア共同体」の誕生にいたる歴史は、あいまいなままにとどまってしまうかもしれないとの懸念がもたれていたのである。

## 2. 研究の目的

第1は、現在注目を浴びている「東アジア共同体」の基盤ともみなされるASEAN+3ならびに「東アジア首脳会議」など関連枠組みの成立と発展に関する基礎的情報をできるだけ詳細に記録することである。ASEAN+3の形成ならびに広い意味での東アジア外交に携わった関係各国の政策担当者からの聞き取り調査を行なうことで、「東アジア共同体」の歴史の基本資料を蓄積することをまずもって目的とするのである。

第2の目的は、収集された基本資料や二次文献をもとに、20世紀後半から21世紀にかけ

での東アジア地域協力枠組みの進展の歴史を叙述することである。単なる一国中心の歴史でなく、関係各国の ASEAN+3 に対する政策決定ならびに各国の相互作用の過程を広い国際政治の枠組みや国内政治との連関のもとで叙述・説明する。いわば「東アジア共同体の創世記」ともいうべき歴史を書き上げる。

第3の目的は、このような東アジアにおける地域協力枠組みの進展の過程についての綿密な分析をベースに、他地域の地域統合の事例と比較検討することで、地域統合に関する新たな理論的展開をめざすことである。これまでの地域統合の理論的検討は、おおむねヨーロッパの事例や部分的に ASEAN やその他地域の事例を中心としたものであった。ASEAN+3 の事例を加えることで、これまでの理論的命題を再検証するとともに、あらたな概念や命題の提示を目指したい。

### 3. 研究の方法

#### ① 定例研究会、スタッフミーティング

2ヶ月に一回の割合で開催

<参加者> 研究代表者、連携研究者、研究補助者

- ・研究方法、資料収集の方針などを確認。
- ・それぞれの研究や研究補助の進捗状況の報告。

#### ② 資料収集、聞き取り調査

- ・各国の新聞や雑誌における東アジア地域協力に関する記事・文献を収集。
- ・外交文書などについて情報公開によって入手可能なものを収集。
- ・1990年代以降の、関係各国の政策担当者（指導者、閣僚、外務省や経済担当官庁の官僚）ならびに政策に関連する有識者のリストを作成。

- ・政策担当者・有識者リストをもとに、オーラル・ヒストリーの手法で、聞き取り調査を行う。

#### ③ 理論的検討

- ・国際政治学や関連領域における地域統合ならびに集団形成、制度論、アイデンティティ論文を収集し、理論的検討を行う。
- ・独自の理論的枠組みの可能性を探求。

#### 役割分担

- ・研究代表者・田中明彦--研究統括
- ・連携研究者・浅野亮--中国の政策
- ・連携研究者・平岩俊司--韓国の政策
- ・連携研究者・大庭三枝--ASEAN の政策
- ・連携研究者・松田康博--中国、台湾の政策
- ・連携研究者・益尾知佐子--中国の政策
- ・連携研究者・金淑賢--韓国の政策

### 4. 研究成果

第1の目的であった東アジアにおける地域協力枠組み成立と発展に関する基礎的情報をできるだけ詳細記録することについては、3年間で国内外の約10ヵ国以上に出張し、約70名からの聞き取り調査を行った。そのうちインタビュー記録の許可を得た50人分のインタビュー記録を作成し、ワーキングペーパーとしてまとめた。このワーキングペーパーは、地域統合の実務者しか知り得ない貴重な情報などを研究する基調な資料となった。

第2の目的である、収集された基本資料や二次文献をもとに、20世紀後半から21世紀にかけての東アジア地域協力枠組みの進展の歴史を記述することについては、研究者各自の論文や著書などで20世紀後半から21世紀にかけての東アジア地域協力枠組みの進展の歴史について分析を進めた。その結果、ASEAN内部の共同体形成をめぐる政治とならんで、中国のパワーの増大、日中政治関係、自由貿易協定作成の動向、金融協力の進展などの重要性が明らかになってきた。

第3の目的の東アジアにおける地域統合に関する新たな理論的展開をめざすという点に関しては、一ヶ月に1回のペースで行われている研究会などで、それぞれの研究分野の発

表・意見交換などをしながら研究をすすめ、その成果においては、メンバーの論文や著書で発表を行った。その結果、ASEANをコアとする多重の地域枠組み形成が、東アジアの地域統合の特徴であること、各国における民主化の進展が地域枠組み内部の規範の形成もうながすこと、制度化の進展における危機の果たす役割が重要であること、主要国間の権力移行のダイナミックスが地域統合にも影響を及ぼすことなどの理論的仮説が形成され、今後のさらなる検討課題となった。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 26 件)

- ① 田中明彦, 「そして世界は元に戻った 9.11 後の国際政治構造と日本外交」, 『外交』, 査読無, Vol.09, 2011, pp. 34-43.
- ② 田中明彦, 「パワー・トランジションと国際政治の変容—中国台頭の影響」, 『国際問題』, 査読無, No. 604, 2011, pp. 5-14.
- ③ 浅野亮, 「中国の対外政策方針の変化: その決定メカニズムとプロセス」, 『国際問題』, 査読, No. 602, 2011, pp. 36-47.
- ④ 浅野亮, 「湾岸戦争と中国の軍事現代化: 解放軍の政策決定過程を中心に」, 『同志社法学』, 査読無, 第 63 巻第 1 号, 2011, pp. 217-252.
- ⑤ 浅野亮, 「中国の戦略・安全保障文化」, 『国際政治』, 査読有, 167 号, 2011, pp. 27-41.
- ⑥ 松田康博, "Taiwan's Partisan Politics and Its Impact on U.S.-Taiwanese Relations", 『社会科学研究 (東京大学社会科学研究所紀要)』, 査読無, 第 63 巻第 3・4 号, 2011, pp. 73-94.
- ⑦ 平岩俊司, 「二つの隣国への不信—韓国の尖閣問題報道」, 『アステイオン』, 査読無, No74, 2011, pp. 168-176.
- ⑧ 金淑賢, 「韓国の北方外交の概念と進展、そして評価」, 『現代韓国朝鮮研究』, 査読有, 11 号, 2011, pp. 4-16.
- ⑨ 平岩俊司, 「金日成と軍事路線 - 4 大軍事路線再考 -」, 『法学研究』, 査読無, 第 83 巻第 12 号, 2011, pp. 421-444.
- ⑩ 松田康博, 「平成 23 年度以降に係る防衛計画の大綱について」, 『防衛学研究』, 査読無, 第 44 号, 2011, pp. 129-146.
- ⑪ 松田康博, 「若林正丈著『台湾の政治—中華民国台湾化の戦後史—』」, 『國家學會雑誌』, 査読無, 124 巻 1・2 号, 2011, pp. 190-192.
- ⑫ 松田康博, 「内閣の安全保障・危機管理機能の強化に何が必要か」, 『外交』, 査読無, Vol. 5, 2011 年 1 月, 2011, pp. 119-126.
- ⑬ 田中明彦, 「日米同盟プラスの新たな安保戦略を」, 『週刊東洋経済』, 査読無, 6368 号, 2010, pp. 124-126.
- ⑭ 浅野亮, 「東アジア秩序と中国・ASEAN」, 『海外事情』, 査読無, 第 58 巻 4 号, 2010, pp. 82-96.
- ⑮ 平岩俊司, 「講演録 緊張続く朝鮮半島情勢と中国の役割」, 『東亜』, 査読無, No. 518, 2010, pp. 12-21.
- ⑯ 平岩俊司, 「韓国における政権交代と対外関係 - 北朝鮮政策を軸とする対外関係の変化 -」, 『国際安全保障学』, 査読無, 第 38 巻第 3 号, 2010, pp. 8-26.
- ⑰ 松田康博, 「台湾政治史研究における聞き取り調査の実践」, 『新史料からみる中国現代史—口述・電子化・地方文献—』, 査読無, 2010, pp. 91-111.
- ⑱ 松田康博, 「『不確実性』としての中国に向き合う—問われる相互依存関係の中の戦略—」, 『世界』, 査読無, 第 808 号, 2010 年 9 月号, 2010, pp. 146-153.
- ⑲ 益尾知佐子, 「世界に飛び立つ南寧: 中国の地域主義の展開における広西地方政府の役割」, 『中国研究月報』, 査読有, 第 64 巻 11 号, 2010, pp. 28-40.
- ⑳ 田中明彦, "Hatoyama's International Policy, From Confusion to New Strategies?", Japanese Spotlight, 査読無, 2010. 3. 1, 2010, pp. 17-19.
- \*大庭三枝, 「グローバリゼーションの進展とアジア地域主義の変容」, 『国際政治』, 査読無, 第 158 号, 2010, pp. 75-88.
- \*大庭三枝, 「アジア太平洋における制度化と日本外交: グローバリゼーションとパワー

バランスの変容の中で」、『国際問題』，査読無，第588号，2010，pp.48-58

・大庭三枝，「東アジアにおける『ハブ』としてのASEAN：域外国との関係とその変容」、『アジア研ワールドトレンド』，査読無，第170号，2009，pp.24-27.

・大庭三枝，「東南アジアは『共同体』を目指すのか」、『外交フォーラム』，査読無，No.257，2009，pp.40-45.

・益尾知佐子，「鄧小平にとっての『日本』——転換期の対日認識」、『近きに在りて』，査読無，第56号，2009，pp.86-98.

・益尾知佐子，「中国の『対外開放』戦略と日本——1978年、対日関係の国内的インプリケーション」、『中国研究月報』，査読有，第63巻11号，2009，pp.2-17.

〔学会発表〕（計16件）

①金淑賢，「3・11、その後の一年を語る」，韓国放送大学日本学学科 2012年3月24日，韓国放送大学（韓国）。

②金淑賢，「東日本大震災後の日本経済パラダイムの転換と日韓の経済協力」，日本政経社会学会（韓国），2012年2月17日，ソウル（韓国）。

③金淑賢，「日本政治におけるリーダーシップの関する考察—東日本大震災の対応を中心に—」，高麗大学日本研究センター日研フォーラム，2011年12月19日，高麗大学（韓国）。

④田中明彦，「権力移行論—理論と21世紀の現実」，日本国際政治学会，2011年11月13日，つくば国際会議場。

⑤浅野亮，「『台頭する中国』と東アジア：複合的アプローチによる『全体像』構築の試み」，日本国際政治学会，2011年11月13日，つくば国際会議場。

⑥松田康博，「中国人民解放軍の対外関係—『中国の国防』の記述を手がかりに—」，日本国際政治学会，2011年11月12日，つくば国際会議場。

⑦平岩俊司，「北朝鮮問題を巡る中国の影響力—哨戒艦事件以降の中朝関係を中心に—」，日本国際政治学会，2011年11月11日，つくば国際会議場。

⑧浅野亮，「東アジア秩序形成における中国の軍事力の役割」，アジア政経学会，2011年10月16日，同志社大学。

⑨益尾知佐子，「現代中国の『穏歩』『急進』と東アジア秩序——中越関係の動向を手がかりに」，アジア政経学会，2011年10月15日，同志社大学。

⑩金淑賢，「日本政治のリーダーシップに関する考察」，済州平和研究院，在外研究者招請研究会，2011年7月15日，済州平和研究院（韓国）。

⑪益尾知佐子，「東アジア地域協力をめぐる日中の相克——2000年前後を中心に」，日本政治外交史研究会，2011年7月9日，神戸大学。

⑫金淑賢，「中韓政治関係への考察」，現代韓国朝鮮学会，2010年11月14日，明治学院大学。

⑬松田康博，「中台関係（1958-1965）—『大陸反攻』対『応戦と統一戦線工作』—」，日本台湾学会第12回学術大会，2010年5月29日，北海道大学。

⑭益尾知佐子，「中国『改革開放』の国際的契機」，九州史学会大会，2009年12月13日，九州大学箱崎キャンパス。

⑮益尾知佐子，「中国の『対外開放』戦略と日本——1978年、対日関係の国内的インプリケーション」，アジア政経学会，2009年10月11日，法政大学市ヶ谷キャンパス。

⑯大庭三枝，「世界経済危機に対するアジアの対応策と国際金融ガバナンス-「地域レベル」での対応と「グローバルレベル」での対応-」，日本政治学会平成21年度大会，2009年10月11日，日本大学。

〔図書〕（計8件）

①益尾知佐子，東京大学出版会、社会科学文献出版社，「第11章 二国間実務協力と東アジア地域協力の進展——1999～2000」『日中関係史 1972-2012（政治編）』，2012刊行予定。

②大庭三枝，アジア経済研究所，「第五章 「ハブ」としてのASEAN—域外諸国との関係とその変容—」，『新しいASEAN—地域共同体とアジアの中心性を目指して』，2012，pp.139-174.

③平岩俊司, 岩波書店, 「北朝鮮危機からの脱出を求めて」, 『岩波講座 東アジア近現代通史 第9巻 経済発展と民主革命 1975 - 1990年』, 2011, pp.319-337.

④松田康博, 慶應義塾大学出版会, 「第12章 中国の国連 PKO 政策—積極参与政策に転換した要因の分析—」, 『現代中国外交の六十年—変化と持続—』, 2011 pp.283-305.

⑤松田康博, 岩波書店, 「中台における政治・軍事関係」, 『東アジア近現代通史 (第10巻) —和解と協力の未来へ・1990年以降—』, 2011, pp.245-264.

⑥松田康博, 岩波書店, 「米中国交正常化に対する台湾の内部政策決定—情報統制の継続と政治改革の停滞—」, 『中国 改革開放への転換—「一九七八年」を越えて—』, 2011, pp.175-198.

⑦大庭三枝, ミネルヴァ書房, 「第13章 アジア地域主義における南部アジア—東南アジアからの視点—」, 『南部アジア』2011, pp.239-256.

⑧益尾知佐子, 柏書房, 「第2章 日本と中国」, 『ゼロ年代 日本の重大論点—外交・安全保障で読み解く』, 2011, pp.41-62.

〔産業財産権〕

○出願状況 (計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況 (計◇件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等  
データベース「世界と日本」  
<http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~worldjpn/>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

田中明彦 (TANAKA AKIHIKO)  
東京大学・大学院情報学環・教授  
研究者番号：30163497

### (2) 研究分担者

( )  
研究者番号：

### (3) 連携研究者

浅野亮 (ASANO RYO)  
同志社大学・法学部・教授  
研究者番号：10212490

平岩俊司 (HIRAIWA SHUNJI)  
関西学院大学・国際学部・教授  
研究者番号：10248792

松田康博 (MATSUDA YASUHIRO)  
東京大学・東洋文化研究所・教授  
研究者番号：50511482

大庭三枝 (OBA MIE)  
東京理科大学・工学部・准教授  
研究者番号：70313210

金淑賢 (KIM SGYON)  
東北大学・法学研究科・准教授  
研究者番号：70528033

益尾知佐子 (MASUO CHISAKO)  
九州大学・比較社会文化研究院・准教授  
研究者番号：90465386